



●楽しい思い出を作ってきました。～姉妹都市スキー交流～

(※詳細記事は8ページをご覧ください。)

財政収支見通し

(単位：百万円)

区分	17年度 (決算)	18年度 (決算)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
歳入	市町村税	430	449	484	463	459	449	445
	地方交付税+臨財債	1,643	1,597	1,595	1,588	1,584	1,580	1,579
	地方交付税※1	1,503	1,477	1,486	1,496	1,506	1,514	1,523
	臨時財政対策債※2	140	120	109	92	78	66	56
	譲与税・交付税	139	149	87	87	87	87	87
	国・県支出金※3	559	371	359	311	345	334	270
	地方債※4 (臨財債を除く)	232	143	419	354	175	171	181
その他	413	397	612	369	313	266	163	
歳入合計 A	3,416	3,106	3,556	3,172	2,963	2,887	2,725	
歳出	人件費※5	638	648	683	582	600	611	600
	物件費・維持補修費※6	451	436	451	491	442	442	442
	扶助費※7	142	133	154	147	144	144	144
	補助費等※8	246	227	295	297	297	297	297
	公債費※9	595	612	608	625	639	645	639
	普通建設事業費※10	846	548	847	566	369	304	250
	その他	471	482	518	464	472	444	353
歳出合計 B	3,389	3,086	3,556	3,172	2,963	2,887	2,725	
歳入歳出差引 (A-B)	27	20	0	0	0	0	0	
財政調整・減債基金※11 残高見込	489	444	255	166	51	39	0	

《用語解説》

- ※1 地方交付税…地方が一定水準の行政サービスを住民に提供できるようにするため、国から交付されるお金。
- ※2 臨時財政対策債…地方交付税の削減による地方の財政不足を補うため、特例的に認められる借入金。
- ※3 国庫・県支出金…町が行う特定事業に対して、国・県から交付されるお金。
- ※4 地方債…地方自治体が、政府・銀行などから調達する長期的な借入金。いわゆる町の借金で、町が発行するものを町債といいます。
- ※5 人件費…議員の報酬、職員の給与などに要する経費。
- ※6 物件費…旅費、報償費、交際費などの経費。
維持補修費…道路、公共施設などの管理に要する経費。
- ※7 扶助費…高齢者、児童、障害者などに対して使われる扶助(援助)に要する経費。
- ※8 補助費等…行政上の目的により、町から各種団体などに対して交付される経費。
- ※9 公債費…町債(町の借金)の元金・利子支払いに要する経費。
- ※10 普通建設事業費…道路、公共施設などの新築・改築などの建設事業に要する経費。
- ※11 財政調整基金…年度間の財源の不均衡を調整するための基金(町の貯金)です。
減債基金…町債を計画的に償還するための基金です。

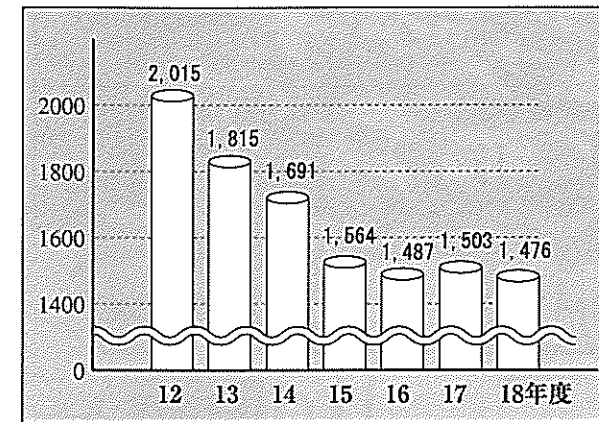
財政の健全化を目指して

公的資金補償金免除繰上償還に係る財政健全化計画

(平成19年度～平成23年度)

●地方交付税の状況

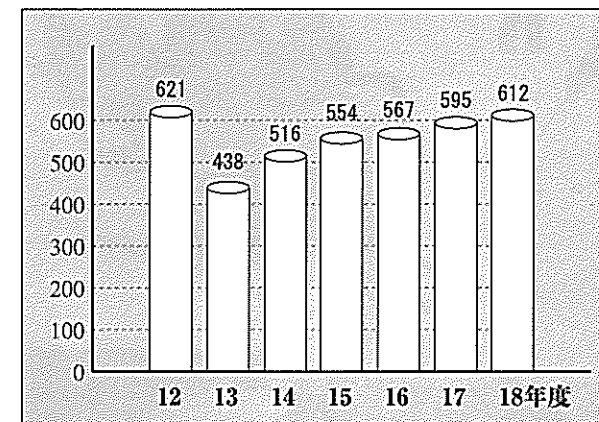
(単位：百万円)



平成18年1月広報でもお知らせしましたとおり、九度山町財政健全化計画を策定し、財政の健全化を進めるため、歳入の確保と歳出の削減に努めておりますが、本町の財政は年々厳しい運営を迫られています。現在の財政状況の悪化の大きな要因としては、国において「三位一体改革」が進められた中で、国の財政再建が優先され、先行する形で行われた地方交付税の大幅な削減があげられます。それに伴い本町の歳入の4割から5割を占める地方交付税は、平成12年度の20億1千5百万円をピークに年々減少し、平成18年度は、14億7千6百万円となり5億3千8百万円余りの削減となっております。一方、歳出面では、高齢化の進展などによる社会福祉関係経費の増加をはじめ、公共事業を行うために借り入れた町債(借金)の残高が年々増加し、公債費(借金返済に要するお金)も増加しています。こうした中、毎年、先に策定した財政健全化計画を基本に、定員適正化計画に基づき職員の削減を図りながら、「最小の経費で最大の効果をあげる」ため、PDCAサイクルに

●公債費の状況

(単位：百万円)



PDCAサイクルに

※1 PDCAサイクル
行政運営を行う上で、「計画をたて(PLAN)、実行し(DO)、その評価(CHECK)にもとづいて改善を行う(ACTION)」という工程を継続的に繰り返す「仕組み(考え方)」。

※2 実質公債費比率
町に入ってくるお金(実際の額ではなく、理論値)のうち、何%が借金の返済に使われているかを示す値です。平成18年度から使用されるようになった新しい指標で、過去3年間の平均値で示されます。なお、18%を超えると町債発行に県の許可が必要となります。

基づく事務事業の見直しを行いながら、行財政改革に取り組んでいます。なお、本町が平成18年度決算における実質公債費比率が18%を超えたことにより、国の特別措置として、財政健全化計画を策定し国へ提出することにより、高金利の地方債の繰上償還が出来ることになりました。普通会計及び特別会計(簡易水道事業及び下水道事業)の財政収支の見直し等の各計画の詳しい内容について、各揭示場に掲示いたします。また、町ホームページに掲載を予定しておりますので、ご覧ください。

生き生きとした

学校を目指して



自然と歴史、伝承と文化遺産が共生する九度山。
癒しと思いやりの気風が息づいている九度山。
そして、先人達が築きあげてきた「教育のまち九度山」。
この恵まれたわがふるさとの教育の未来を見つめ、よりよい教育の発展を！と願いを込めて特集します。

●今日の教育は？

今日、少子高齢化、高度情報化、社会の成熟化など様々な変化が子どもを取り巻く状況にも影響を与え、教育にも課題を生じさせています。こうした状況を踏まえて、昭和22年に制定された教育基本法が60年ぶりに改正されました。

改正法では「個人の尊厳」や「人格の完成」などこれまでの理念を重んじつつ、これからの社会に求められる教育の目的・目標が示されています。さらに、学校教育法など関連する三つの法律が改正されました。また、この3月末にはこれらの改正を受けて新版学習指導要領が公示されます。

本町においても、これら関係法等の内容を踏まえ、本町独自の課題認識に立ち教育の改革を進めていくことが急務であり、また、生き生きとした学校、子どもたちにとって最高の居場所となる学校、保護者や地域の方々と一緒に新たな学校を目指します。

●九度山町の教育目標

豊かな人格の形成を図ることを主眼として、人権尊重を基盤とし

た心のふれあう充実した教育を通して「生きる力」をはぐくみ、主体的に生きていく元気な児童生徒を育てます。

●5つの教育目標

- 【1】自己実現を目指し自立する人間の育成
- 【2】人を思いやる豊かな心と体を鍛える人間の育成
- 【3】確かな学力と創造力に富む人間の育成
- 【4】共生と公共の精神に富み、社会の形成に主体的に参画する人間の育成
- 【5】地域の文化や伝統を重んじ国際社会に貢献する人間の育成

●学校教育の基本方針

これらの教育目標を達成させるために、学校では具体的に次のような取り組みを行います。

- ①教育改革の視点に立った課題の解決と教育目標の達成のための教育課程の編成
- ②児童生徒一人ひとりの人権、個性を大切にして、児童生徒が生き生きと学び、わかる喜びが体得できる教育の推進
- ③児童生徒の「自発・自学・自治」を基本とした生徒（児童）指導

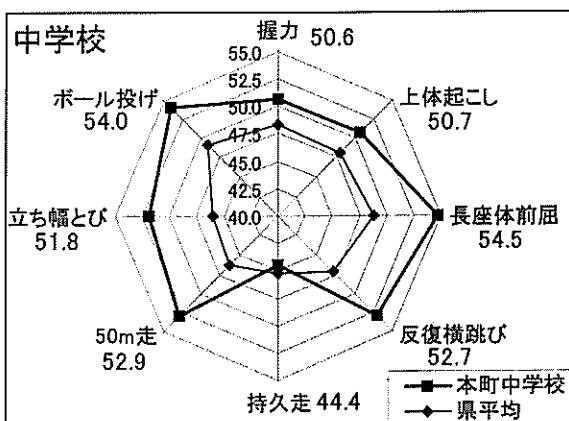
- と多分野における交流活動とおこしたコミュニケーション能力や自己表現能力の向上
- ④一斉指導（授業）の工夫・改善やチームティーチング、少人数指導等による指導形態の工夫による学力の向上
- ⑤幼稚園（保育所）と小学校間【小1プロブレム】、小学校と中学校間【中1ギャップ】の段差の解消
- ⑥教育目標の達成度の評価や成果等に関する情報の公表
- ⑦「地域の子どもは地域で育てる」ことを基本理念とした地域・家庭との連携・協働による「信頼される学校、社会に貢献できる学校」づくり
- ⑧教職員研修等をおとした資質向上と「学校力」の強化
- ⑨学校を地域の「生涯学習拠点」とした学びの場や機会の提供

●九度山町の子どもたちの現状は？

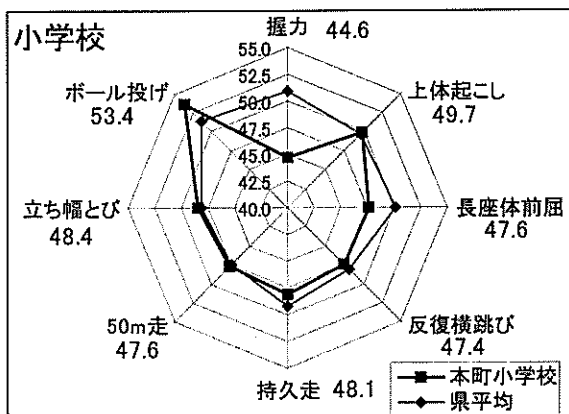
それでは、本町の子どもたちの現状はどうなのでしょう？
ここでは、学力・体力についての2つの調査結果から、本町の児童生徒を見ていきます。

平成19年度 和歌山県児童生徒の体力・運動能力調査結果から

各市町村別結果から九度山町の中学生の体力が県内トップであることが分かりました。小学生の皆さんもがんばりましょう。



※グラフで使用している数値はTスコア(偏差値)です。同じ単位になるので、種目間の比較がしやすくなります。全国平均を50として表示しています。



全国学力・学習状況調査結果の観点別評価にみる本町児童生徒の傾向

調査の概要：日時…平成19年4月24日実施 対象…小学校6年生と中学校3年生の全児童生徒
検査科目…国語A・国語B、算数(数学)A・算数(数学)B、学習状況調査
A：主として「知識」に関する調査 B：主として「活用」に関する調査

- 小学国語：「知識・理解・技能」において全国平均を上回るが、「読む能力」に関してはやや弱い。なお、国語に関して、「好きでない」「大切と思わない」の割合が高く、学習した漢字を積極的に使おうとしない傾向が強い。もう少し長い時間の読書の習慣づけが課題である。
- 小学算数：「表現・処理」「知識・理解」において全国平均を上回るが「数学的な考え方」に関しては少し弱い。
- 中学国語：「A」では国語への「関心・意欲・態度」は全国平均を上回るが、「話す・聞く力」「書く能力」は全国平均を下回った。しかし、「B」では「話す・聞く能力」が全国よりも5.4ポイント上回り、「言語についての知識・理解・技能」も上回った。しかし、「読む能力」は弱い。
- 中学数学：「B」では「数学的な見方や考え方」において全国平均よりも下回った。しかし、「連立方程式」や「図形」などの個々の問題においては相当高い正答率である。

(概評)

ここでは、紙面の関係で分析の一端を記述しましたが、各学校において綿密な分析と一人ひとりの各教科における優れた点や弱点を把握しており、今後における一人ひとりに応じた学力の向上策を立てていくこととしています。また、同時に実施した「学習状況調査」から得られた個々の結果を、家庭や学校での学習態度におけるアドバイスに役立てていきます。

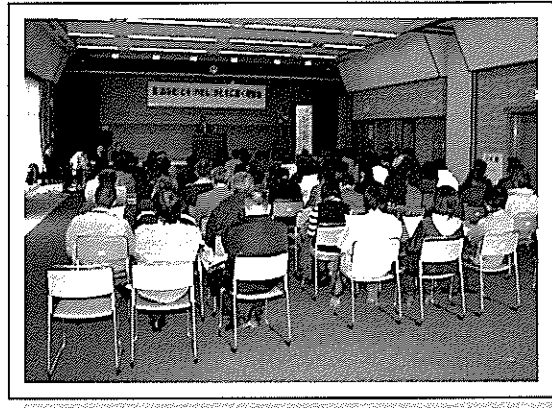


自慢の歌声を披露!

2月9日に、恒例の「町民カラオケ大会」が中央公民館で開催されました。

当日は50組が参加し、演歌やなつメロなど各々の十八番を大熱唱。会場を埋めつくした200人を越える大観衆から、大きな拍手を受けていました。

なお、この大会の様様をビデオでご覧になりたい方は、中央公民館(☎54-2019)へご連絡ください。

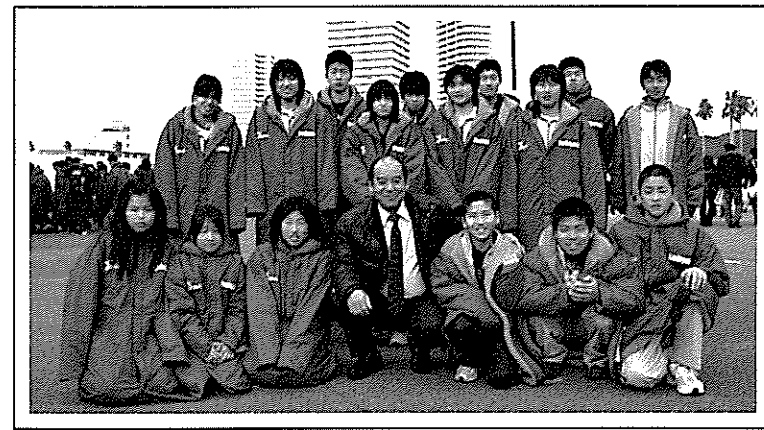


これからの農業を考える!

2月19日、ふるさとセンターで、「男(あなた)と女(わたし)がともに輝く研修会」が開催されました。

当日は、和歌山大学経済学部の藤田武弘先生を講師に迎え、「食」「農業」そして「観光」を中心としたまちづくりについて、ご講演いただきました。

当研修会は、家族経営協定・認定農業者推進会が主催し、多くの皆さんが参加され、熱心に聞き入っていました。



一本のたすきに思いをこめて...

2月17日に開催された、恒例の「第7回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会」に、小学5・6年生と中学生で編成された九度山町チームが参加しました。

当日は時おり雪がちらつくような寒さで、海岸沿いのコースは身を切るように冷たい風が吹いていましたが、県庁からマリーナシティまでの25kmを、10名の選手がタスキをつないで走り切りました。

なお、九度山町チームの記録は30市町村中27位、総合タイムは1時間39分09秒でした。

また表彰式において、九度山中学校3年生の入谷健介君が、5年連続出場選手として表彰されました。



九度山幼稚園発表会



九度山保育所発表会



青年海外協力隊の体験を学ぶ!

青年海外協力隊としてソロモン諸島に1年間赴任していた、道上暁子さん(九度山)が、2月19日に九度山小学校を訪れ、6年生の児童を対象に、その体験をお話しされました。

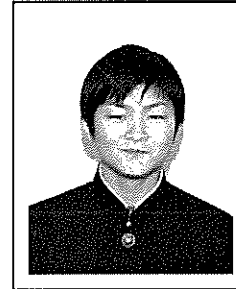
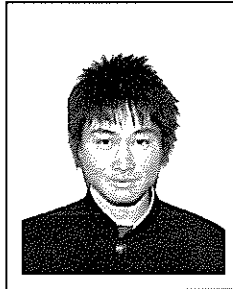
道上さんは、ソロモンで撮影した写真を子どもたちに見せながら、ソロモンでの生活の様子や、看護師として体験した現地医療の厳しさなどをお話していただきました。

また、ソロモンの民芸品なども実際に見せていただき、子どもたちは興味深そうに「それは何に使うの?」と質問していました。

園児が劇やお歌に大奮闘!

2月15日にふるさとセンターで「九度山幼稚園発表会」が、また2月23日に中央公民館で「九度山保育所・ひなまつり発表会」がそれぞれ開催されました。

園児らは、この日のために練習した、劇や歌、お遊戯などを披露。会場を埋め尽くした父兄からは大きな拍手が贈られました。



模範生徒表彰を受賞

学校内外を問わず日頃の生活態度が立派で、他の生徒の模範になるものとして、伊都高野山ライオンズクラブから次の生徒が表彰されました。

- 九度山中学校3年 中西 佑介さん(写真左)
- 河根中学校3年 久保 淳志さん(写真右)



九度山空手道クラブが好成績

1月28日に開催された「和歌山県空手道協議会空手道交流大会組手試合」において、九度山空手道クラブが次のとおり好成績を収めました。

- 高校・一般女子の部 優勝 森下美佳さん
- 小学4年男子の部 優勝 脇田真安希さん

近畿体育指導員功労者表彰を受賞

体育指導委員の松山悦雄さん(九度山)が、2月1日に白浜町で開催された近畿体育指導員研究協議会において、功労者表彰を受賞されました。

松山さんは平成7年の委嘱以来、12年以上にわたって社会体育振興に活躍されています。

★お詫びと訂正

広報くどやま2月号の7ページで次の誤りがありましたので、お詫びして訂正させていただきます。

(誤)岡本良太 → (正)岡田良太

長野県上田市と九度山町との姉妹都市交流

長野県上田市と九度山町は、真田一族のゆかりの地として、平成18年8月に姉妹都市提携を結び、さまざまな分野で交流を深めています。

ここでは、今年になって行われた2つの交流をご紹介します。

●上田市議会議員団が来町

1月30日に、上田市議会親善訪問団15名の皆さんが、来町されました。

当日はふるさとセンターで、九度山町議会議員との交流会が開催され、両町の紹介やこれからのまちづくりについての意見交換などが行われました。

また、真田庵や慈尊院も視察され、上田市の議会議員団の皆さんは「今回の訪問で、姉妹都市である九度山町の魅力をたくさん知ることが出来ました」と話されていました。



●姉妹都市スキー交流

2月8日から2泊3日の日程で、町内の小学校5、6年生67人が上田市を訪れ、上田市の菅平小学校の児童らとスキー交流を行いました。

九度山町のほとんどの児童が初めてのスキーでしたが、菅平小学校の児童の指導のおかげでみるみる上達し、楽しそうにゲレンデを滑っていました。

また、信州名物の『そば打ち体験』を行ったり、『真田氏歴史館』を見学したりして、楽しい思い出をいっぱい作って帰ってきました。



社団法人 日本損害保険協会から 軽消防自動車が寄贈されました

社団法人 日本損害保険協会では、地域の防災力を高めるため、全国の市町村に小型動力ポンプ付軽消防自動車の寄贈を行っておられます。今年度においては、九度山町にも寄贈され、2月20日にその受納式を行いました。

受納式では、社団法人 日本損害保険協会から寄贈目録が贈呈され、町長・消防団長・河根区長・消防団第4分団長がお礼の言葉を述べました。

寄贈された軽消防自動車は、消防団第4分団河根峠班に配備され、さっそく放水訓練を行いました。

